



# 杉八団報

第 245 号 [2003年 7月 10日 発行]

日本ボーイスカウト東京連盟

杉並第八団 - 団報 -

登録 No.15-14-01-008

[本部] 東京都杉並区本天沼 1-27-16

竹之内 實

[mail] [takesan@muji.biglobe.ne.jp](mailto:takesan@muji.biglobe.ne.jp)

[HP] <http://www.big.or.jp/~sugi8>

## 35周年キャンプ迫る！

キャンプのスケジュールが決定しましたのでお知らせします。  
皆さんで楽しいキャンプに行きましょう。

8月9日 6:00 集合

6:30 出発

11:00 十日町博物館

13:30 キャンプ地開村式

16:00 ゲーム (食事選択権取得)

17:00 夕食 (餅つきを含む)

20:00 キャンプファイア

22:00 懇親会

8月10日 8:20 セレモニー

9:30 ワイドゲーム

(謎解きオリエンテーリング)

13:30 ゲーム終了

14:30 記念写真、表彰

15:00 セレモニー 解散

### <ビーバー隊>

#### 活動報告

6/15 隊集会…荻窪北児童館で見学者2名を  
(日) 迎え、割り箸ヒコーキ等の工作を楽しみました。



6/29 下見・リーダー会議 7月隊集会打合せ

7/5 団会議、区民センター祭り奉仕

#### 今後の活動予定

7/20 7月隊集会『地下鉄のたつじん』

(日) 地下鉄のスタンプを集めたりします。どんな  
コースか、そして何があるかはお楽しみ。

**ビーバースカウト募集中です！**

皆さんの周りの方にもお声掛け下さい。

### <カブ隊>

#### 活動報告

6/7(土) 若杉まつり (若杉小) : リーダー奉仕

6/15(日) 隊集会 山手線ラリー :

指令書でGO...11ポイント中いくつまわれた？



日暮里駄菓子横丁にて  
すももはすっぱいな～！



新橋SL前  
汽車はおおきいな～！

6/21(土) 地区ゲーム・ソング研究会 (下井草教会)

講師 : 大島隊長他2名 リーダー中心に参加

6/22(日) 十日町夏キャンプ下見

7/5 (土) 七月祭奉仕 (荻窪地域区民センター) : リーダー奉仕

7/6 (日) 合同組集会 (上荻児童館) : 夏キャンプ 準備

保護者会 : 夏キャンプについて

#### 今後の予定

7/13 (日) 十日町夏キャンプ下見

7/20 (日) 隊集会 (上荻児童館) : 夏キャンプ準備

## <ボーイ隊>

6/8 隊集会(東原児童館)



たちかまど製作



6/15 GB 訓練(刃物取り扱い)



6/22 スカウト救急法講習会  
天野君、笹井君が参加

7/12 隊集会(東原児童館)  
キャンプ準備

7/26 GB 訓練

## <VS/RS>

### VS 一泊キャンプ終わる！！



去る 6/14-15 で一泊を、武蔵五日市/逆沢で実施しました。マス釣りで釣果は 33 尾、早速晩のご馳走は塩焼きです。燻製も時間をかけじっくりと仕上げました。

あいにくの雨模様でしたが、緑生い茂る自然の中で快適なキャンプ生活を味わいました。スカウト 3 名参加でしたが、満喫できたキャンプとなりました。



### 夏キャンプを盛り上げよう！！

8 月 9 日～10 日 (団記念キャンプ)

10 日～13 日 (VS キャンプ)

## <団・育成会>

7 月 5・6 日「おぎくぼ七月祭」模擬店 **大盛況!**  
育成会、スカウト、各隊リーダー、団委員あわせて 50 名以上のお手伝いやお買い上げと皆様のご協力のおかげでやきそば、フランクフルト、かき氷、ヨーヨーつりのコーナーはすべて大盛況完売でした。

**ご協力御礼!**

売上げ 205,300 円利益 145,518 円と予想以上の収益が、キャンプや今後のスカウト活動に還元されます。

**8 月 2 日 (土) 35 周年キャンプ、各隊夏キャンプの出発式 安全祈願** 白山神社に午後 4 時 50 分集合です。  
スカウト、育成会員ともども 是非参加してください。

<団委員会> 6 月 28 日 (竹之内、高木、山中、高島、山口、土方)

<団会議> 7 月 5 日 (BVS 天野 CS 大島 BS 別役, 山中, 宮崎, 下司 VS 阿出川 RS 山口)

(団委員 竹之内, 高木, 山中) (35 周年キャンプ実行委員 RS 山中, 池田)

<地区> 6 月 21 日カブ部門特別円卓「ゲーム・ソング」講師 大島 CS 隊長 8 団から山中 CS 副長補参加  
10 月 19 日「15 年度 歌とゲームの集い」善福寺川緑地付近 和田掘り公園で開催の予定



ヨーヨーつりも大好評



おいしい焼きそば売切れで一す



去る 5 月 9 日・10 日に実施された、杉並地区グリーンバー訓練キャンプに参加したボーイ隊の大杉君と天野君、スタッフとして参加したボーイ隊下司副長からキャンプの感想文が寄せられました。 “ありがとうございました！”

イーグル班 大杉雄太

今回のキャンプで良かったことはご飯が上手く出来たことでした。夜、麻婆豆腐を作れ。と言われたときは絶対無理だと思いましたが、なんととても美味しく出来ました。ご飯も焦げず、麻婆豆腐も麻婆豆腐の味がしました。朝はスクランブルエッグは少し失敗したもの他のものはうまくいきました。もう一つ良かった事は、麻紐を刃物なしで切る方法を知ったことです。キャンプファイヤーもいつもより盛り上がってよかったです。

## キャンプに行って

ファルコン班 天野遥彦

僕は、他の団のグリーンバーとキャンプに行く聞いて「友達をつくって仲良くできるかな」と心配になりました。そしてついにグリーンバーが集まる日になって緊張しました。しかし班分けもすんで自己紹介になると、同じ本がすきとかで、話題ができたので仲良く話すことが出来ました。

キャンプ当日、電車に乗りついで駅に着きました。キャンプ場まで行く時、山の分かれ道で迷ってしまい、そのあたりを15分位うろうろしていました。おばあさんに道を聞き、その草だらけの道を登ってみると、そこにはリーダーのテントがあり、ほっとしました。しかし遅れたのにもかかわらず一番に着きました。そこでもういちど制服に着替え隊長に報告し、他の班がくるまで日陰で休んでいました。やがて、ほかの班が来ると班サイトをきめました。そのあと、テントをつくり、だいたいのが終わり、みんなで、しゃべったりして楽しかったです。それから、弁当を食べて設営の続きをやりました。夕食の配給で班長が持って帰ってきてくれたものをみると、「これでだいじょうぶなのかな？」というものがありました。それは、メニューは麻婆豆腐なのに「お麩があった」などです。しかし、つくってみると結構おいしくて、いままでボーイスカウトでつくってきた中で、一番おいしいと思いました。

次の日は、幾つかのポイントをまわって、バッヂを取るという内容のゲームでした。紐でチーフリングを作ったり、火熾しをやったりしましたが、チーフリングをつくるのが一番気に入りました。夜は、キャンプファイヤーをやりました。どの出し物もとても面白かったです。

最終日はテントなどを片付けました。途中から雨が降り出し気分が嫌になりましたが、すぐに晴れたのでほっとしました。このキャンプは、友達もできたし、いままで、一番いいキャンプだと思いました。

## 杉並地区GB訓練に参加して

ボーイ隊副長 下司 英明

5月8日に急遽参加が決まり、手渡された計画書を読むと、「今、私達が指導者として何をめとめられているのか？何をすべきなのか？グリーンバースカウトともに学びたいと思います。」とある。それは、5月3日～5日に隊キャンプに約2年ぶりに行ってきたばかりの私が直面した問題であった。今回は副長兼記録係ということで、スカウトたちをあらゆる角度から見つめ、そのうえで私が果たすべき役割を考える絶好の機会と捉え、ほど良い緊張感を持ちながら現地へと向かった。

個人的な都合から10日午後からの参加となったため、スカウトたちの設営はほぼ完了していた。家型テントを建てた経験のないスカウトが多いようで、各班とも苦戦を強いられていたようだ。しかし、夕方5時を過ぎても夕食を作ろうとしない、夜の班会議も自主的に開こうとしない…というように、スカウトには自分は今何をすべきか、意識できていないようであり、意識だけでも変わってもらわなければと、改めて思わされた。

なぜだろう。なぜ彼らは考える力をつけてこなかったのだろう。その原因を、私なりに2点挙げてみる。その上で改善策を考えてみたい。

1 点目は彼ら自身の力で、すなわちリーダーの力を借りずに、何かをやり遂げた経験がないのではないだろうか、ということである。あらゆるプログラムにおいて、リーダーの監視下、というよりむしろリーダー主導になってしまっていたのではないだろうか。

2 点目はスカウトたちにとって、現状を楽しむ余裕がないのではないだろうか、ということである。スカウトに限ったことではないが、一日が学校あるいは部活で終わり、家に帰ると疲れて寝る。次の日も、また次の日もその繰り返し…という状態になっているのではないか。そしてそこに彼らの意思是反映されていないのではないか。

これらを改善するにはどうしたらよいのだろうか。1 点目に対しては、リーダーから班長へ、班長から班員へ…という指示伝達の流れを徹底させることが必要ではないだろうか。この流れで、班員一人一人がスケジュール等の伝達事項を理解し実行できるように、まずはリーダーから指導する。その方法は班長クラスに対し、一回限りという前提で座講を開き、スカウトにメモをさせ、これを班会議で下位スカウトに伝達させる。リーダーは次回隊集会でスカウトに確認させる。このような機会を設けることで、スカウトがこれからすべきことに対する自覚を持ち、さらには危険防止に対する責任感等に自らの力で発展させることも不可能ではないと思う。

2 点目に対しては、スカウトたちが主体となって活動できるように、明るい話題を提供するのも一案ではないだろうか。そのために私を含め、先輩スカウトがスカウト時代の体験を話してあげるなどして元気付けることはできると思う。この意味では、今回のキャンプのように全体を盛り上げるのも一定の効果があったといえるだろう。

確かに、今回のキャンプは「訓練」という名目から想像するものとは異なる内容となった。しかし、これを機会に、スカウトたちが自主的に活動できるきっかけをつかんでくれたならば、次回以降にこのようなキャンプを開催したとき、リーダーを含めた参加者全員にとって、有益な収穫のあるキャンプになると考える。